

解答例の使い方

完成文の暗記ではなく、条件と伝わり方を確認

答えを写す前に、自分の文章と例の違いを見つけましょう。別の経験や立場でも、問いに答え、条件を満たして説明できていれば認められます。

各問の「確認基準」は、この教材の振り返り用です。自分・読み手・先生が、それぞれ「できた／一部できた／直したい」で見取り、次に直す点を一つ決めましょう。合計点や全国共通の合格基準を示すものではありません。

作文例は、問題と同じ20マス・9mmの原稿欄に配置しています。「使用マス数」は段落頭の空きや途中の改行後までの空きを含み、本文だけの文字数とは別に表示します。数え方は学習ポイントと問題の冒頭を確認してください。

基礎の解答例

問いに合う別の表現も認める

問1 複数の条件を整理する

解答例 題意：新入生へ、提出物を忘れない工夫を助言する。

条件：経験と考え。百八十～二百マスで二段落。第二段落に「今後」を一回。常体。

考え方 相手と目的を捉えたうえで、内容と形式を分けています。「今後」があるだけでなく、第二段落に一回という指定まで拾う必要があります。

別の答え方 指定された四項目の中で、位置・回数などを細かく整理してもよい。項目数と必要な情報を保つこと。

確認基準（この教材での目安）

- ・読み手と目的を捉えている。
- ・内容・長さ・段落を落としていない。
- ・指定語の位置・回数と文体まで確認している。

問2 指定語の形と働きを見分ける

解答例 適合するのはア。利点と課題を対比し、「一方」が一回ある。イは指定語が違い、ウは指定語を二回使っている。

考え方 イは意味の対比はできていますが、指定された文字と異なります。ウは回数が条件と違います。内容と形式を別々に点検すると、見落としを減らせます。

別の答え方 イは「他方」という別の表現なので、この問題の「そのまま」という条件を満たさない、と説明してもよい。

確認基準（この教材での目安）

- ・アを選んでいる。
- ・イの表記とウの回数の違いを指摘している。
- ・対比という語の働きも確認している。

基礎の解答例

問いに合う別の表現も認める

問3 指定語で理由をつなぐ

解答例 班の調査では、最初に担当と項目を確認するべきだ。なぜなら、同じ資料を別々に調べる重複を減らせるからだ。

考え方 主張に対して、なぜそうすべきかを第二文が説明しています。指定された型を満たしていても、無関係な理由では内容の条件を満たしません。

別の答え方 第一文を「班の調査では、作業前の役割確認が必要だと考える」としてもよい。

確認基準（この教材での目安）

- ・主張と理由が対応している。
- ・指定語が一回、第二文の冒頭にある。
- ・二文で、末尾の指定も守っている。

問4 段落ごとの内容を配分する

解答例 第一段落：ア・イ。改善の行動と結果を示す。

第二段落：ウ・エ。経験の意味を考え、次の改善につなげる。

考え方 経験の説明と、それをどう捉えるかを分けています。一段落に複数の文を置いても、二段落という条件は変わりません。

別の答え方 第一段落を「具体的な経験」、第二段落を「経験から得た考えと実践」と説明してもよい。

確認基準（この教材での目安）

- ・ア・イとウ・エに分けている。
- ・各段落の役割を説明している。
- ・考察と行動が経験につながっている。

標準の解答例

問いに合う別の表現も認める

問5 語を入れただけの文を直す

解答例 不足：課題と対応策。

ただし、同じ箇所を同時に直すと混乱する可能性がある。修正する範囲を先に決めて使いたい。

考え方 元の第二文は利点を繰り返すだけで、「ただし」が示す制限や注意点になっていません。課題を具体化し、それに対応する方法を続けています。

別の答え方 対応策を「編集する時間を分ける」としても、同時編集の問題に対応できる。

確認基準（この教材での目安）

- ・不足を言葉だけでなく内容として捉えている。
- ・「ただし」が課題を示している。
- ・対応策がその課題に合っている。

問6 立場と文体を統一する

解答例 私は、班の進行役を担当した。途中で発言が一部の人に偏ったので、全員に順番に案を求めた。

考え方 立場を第三者から書き手へ変え、文末を常体に統一しています。表現を直しても、なぜ全員に案を求めたかという理由は残しています。

別の答え方 第二文を「発言が一部の人に偏ったため、全員から順に案を聞いた」としてもよい。

確認基準（この教材での目安）

- ・第一文に「私は」が一回ある。
- ・常体の二文になっている。
- ・行動と理由の内容を保っている。

標準の解答例

問いに合う別の表現も認める

問7 条件の位置まで点検する

解答例 段落数：適合。二段落ある。

指定語と具体例：不適合。「例えば」で始まる文を第一段落へ移す。

懸念と対応：適合。「端末を使えない」という懸念と、「紙でも確認できるようにしたい」という対応が第二段落にある。

考え方 語が一回あるだけでは、位置の指定まで満たせません。具体例の文を第一段落へ移すと、第一段落が提案と例、第二段落が懸念と対応になります。

別の答え方 全文を書き直さず、移す文と移動先を明確に指示すればよい。

確認基準（この教材での目安）

- ・二段落であることを確認している。
- ・具体例と指定語の位置の誤りを見つけている。
- ・修正方法が残りの条件を壊していない。

問8 手順と未確認の点を報告する

応用 | 使用マス数 120～160マス

解答例 使用マス数 127／本文の文字数 127（段落頭の空き等を除く）

条件を満たす作文例

	委	員	会	で	は	、	校	内	案	内	の	見	直	し	案	を	ま	と	め	20
た	。	ま	ず	、	案	内	図	と	校	内	の	動	線	を	照	合	し	、	分	40
岐	点	の	表	示	が	不	足	し	て	い	る	と	確	認	し	た	。	次	に、	60
曲	が	り	角	へ	表	示	を	加	え	る	案	を	作	成	し	た	。	た	だ	80
し	、	実	際	に	迷	う	人	が	減	る	か	は	、	ま	だ	確	か	め	て	100
い	な	い	。	来	週	は	案	を	試	し	、	利	用	者	の	様	子	を	確	120
認	す	る	予	定	だ	。														140
																				160

考え方 確認した事実、作成した案、効果が未確認であること、今後の予定を区別しています。
「まず」「次に」は行動の順序を示し、常体でそろえています。

別の答え方 冒頭に現状の課題を置く構成でもよいが、試行済みと誤解させないこと。

確認基準（この教材での目安）

- ・ 指定の使用マス数と一段落を守っている。
- ・ 二つの指定語が一回ずつあり、手順を示している。
- ・ 未確認の効果と今後の予定を区別している。
- ・ 常体が一貫し、材料にない結果を加えていない。

解答例の条件確認

使用マス数と段落数：適合／使用マス数は127マス、段落数は1で、指定の範囲と一致する。

指定語と手順：適合／「まず」は照合と確認、「次に」は案の作成を示し、それぞれ一回ある。

未確認の点と予定：適合／迷う人が減るかは未確認とし、来週試す予定を示している。

文体：適合／「まとめた」「作成した」「予定だ」などの常体で統一している。

問9 二段落の指定を同時に満たす

応用 | 使用マス数 160～200マス

解答例 使用マス数 191／本文の文字数 181（段落頭の空き等を除く）

条件を満たす作文例

	私	は	、	学	級	の	連	絡	を	共	同	メ	モ	に	ま	と	め	る	方	20
法	を	試	し	た	い	。	例	え	ば	、	提	出	期	限	と	提	出	先	を	40
教	科	別	に	一	覧	に	す	れ	ば	、	複	数	の	場	所	を	探	す	負	60
担	を	減	ら	せ	る	と	考	え	る	。	変	更	点	も	同	じ	場	所	で	80
確	認	で	き	る	よ	う	に	し	た	い	。									100
	一	方	、	端	末	を	す	ぐ	に	使	え	な	い	場	面	へ	の	配	慮	120
も	必	要	だ	。	紙	の	掲	示	を	併	用	し	、	内	容	が	食	い	違	140
わ	な	い	よ	う	更	新	担	当	を	決	め	る	。	ま	ず	短	期	間	試	160
し	、	全	員	が	必	要	な	連	絡	を	確	認	で	き	た	か	を	聞	い	180
て	、	方	法	を	見	直	し	た	い	。										200

考え方 第一段落で提案の具体例を示し、第二段落で端末利用の制約と対応策を述べています。効果は考えとして表し、試行後に確かめるため、未確認の結果を断定していません。

別の答え方 共同メモを補助的に使い、紙の掲示を基本にする提案でもよい。その場合も、二段落の役割と指定語を守る。

確認基準（この教材での目安）

- ・ 指定の使用マス数と二段落を守っている。
- ・ 各段落に指定された内容を置いている。
- ・ 指定語が正しい段落に一回ずつある。
- ・ 懸念と対応がつながり、効果を断定せず常体で書いている。

解答例の条件確認

使用マス数と段落数：適合／使用マス数は191マス、段落数は2で、指定の範囲と一致する。

第一段落の提案・例・指定語：適合／共同メモの試行を提案し、「例えば」を一回使って教科別の一覧を示している。

第二段落の懸念・対応・指定語：適合／「一方」を一回使い、端末利用の制約に紙の掲示で対応している。

未確認の効果と文体：適合／効果を「考える」と表し、試して見直すとしている。全体が常体である。

問10 複合条件で改善案を書く

応用 | 使用マス数 180～200マス

解答例 使用マス数 196／本文の文字数 177（段落頭の空き等を除く）

条件を満たす作文例

	私	は	、	話	合	い	の	初	め	に	、	各	自	が	案	を	書	く	時	20
間	を	設	け	た	い	。	な	ぜ	な	ら	、	発	言	の	速	さ	に	左	右	40
さ	れ	ず	、	全	員	の	案	を	確	認	し	や	す	い	か	ら	だ	。	以	60
前	の	班	で	は	発	言	が	重	な	っ	た	が	、	後	で	案	を	書	い	80
て	並	べ	る	と	、	記	録	で	き	な	か	っ	た	意	見	も	比	較	で	100
き	た	。																	120	
	た	だ	し	、	書	く	時	間	が	長	す	ぎ	る	と	、	意	見	を	深	140
め	る	時	間	が	減	る	。	そ	こ	で	、	案	は	短	い	メ	モ	に	と	160
ど	め	、	意	見	を	深	め	る	時	間	を	確	保	し	た	い	。	試	し	180
た	後	は	、	班	員	と	方	法	を	見	直	し	た	い	。					200

考え方 指定された語の位置と回数に加え、理由を支える経験、懸念に対応する時間配分を示しています。最後の文は今後の具体的な行動を述べ、「たい。」で終わっています。条件を満たす結論や経験は一つに限定されません。

別の答え方 別の経験を使う場合も、提案がその経験の課題に対応するようにする。

別の答え方 書く方法に限定せず、順番に短く発言する案でもよい。理由、経験、懸念への対応がつながることが必要である。

確認基準（この教材での目安）

- ・ 指定の使用マス数と二段落を守っている。
- ・ 提案と理由が、第一段落の経験に支えられている。
- ・ 指定語の位置・回数と、常体・末尾の指定を守っている。
- ・ 懸念への対応が具体的で、次の行動につながっている。

解答例の条件確認

使用マス数と段落数：適合／使用マス数は196マス、段落数は2で、指定の範囲と一致する。

第一段落の提案・理由・経験：適合／案を書く提案の後に「なぜなら」を一回置き、前回の班の経験を根拠にしている。

問10 複合条件で改善案を書く 続き

前のページからの続き

第二段落の指定語・懸念・対応：適合／「ただし」を一回使い、時間不足の懸念へ短いメモと討議時間の確保で対応している。

文体と最後の文：適合／常体で統一し、最後は「見直したい。」で終わっている。